

第6次茅野市総合計画 基本構想(素案)

令和5年10月
茅野市

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

資料編（各種データ）

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

資料編（各種データ）

1 現状把握と課題提起の考え方

茅野市の現状について、**強み**、**弱み**、**脅威**、**機会** の4つの要素で整理し、把握します。

課題については、茅野市の**強み**を活かし、チャンス（**機会**）を捉えながら、茅野市の問題（**弱み**）を克服し、**脅威**に立ち向かうといった考え方に基づき提起します。

2 茅野市が守り、育んできた大切なもの

まず、茅野市がこれまで守り、育んできた大切なもの、そして、これからも、茅野市の **強み** としてまちづくりに活かしていきたいと考えているものを確認します。

八ヶ岳の豊かな自然環境と人々の交流

- ・ 縄文時代中期に最も人口が集中し、黒曜石などを運ぶ交易の中心であったとされ、古くは、湯治場、療養地として栄えた歴史
- ・ 現在は、約1万戸の別荘を有し、多くの観光客や別荘利用者などが訪れる高原リゾート地
- ・ 多くの人が八ヶ岳の豊かな自然環境を目的に訪れ、滞在し、そこに生まれた交流が育んできた寛容性や地域経済

公民協働の「パートナーシップのまちづくり」

- ・ 自助、共助、公助のバランスを保ち、地域の多くの人の参画により公民協働でまちづくりを推進する茅野市ならではの手法
- ・ 地域の課題は地域で解決する仕組みとして、戦後間もなくスタートした公民館活動がベース
- ・ 諏訪中央病院などの市内の医療機関と、保健、福祉、地域との連携を目指した地域包括ケアシステムの構築

「若者に選ばれるまち」実現を目指す人口減少対策の取組

- ・ コワーキングスペースの設置、DMOの創設などによる関係人口、交流人口の創出
- ・ 最先端の技術を活用したDXの推進、公立諏訪東京理科大学との産学公連携による研究開発を通じたブランド創出
- ・ 「デジタル田園健康特区」による健康・医療分野の取組の推進、「のらぎあ」のサービス展開

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ①

世界規模で社会経済情勢は大きく変化※1しており（**脅威**）、その影響は、茅野市へ直接及び、地域の人と人とのつながりの希薄化※2や、地域経済の縮小※3を引き起こしています（**弱み**）。

しかし、コロナ禍においては、人の流れに「地方回帰」の新たな潮流※4が生まれ、人口減少・超高齢化が進む茅野市にとって大きなチャンスとなっています（**機会**）。

- ※1 ・ 新型コロナウイルス感染症により、これまで当然と考えられていた社会の枠組み、人々の生活様式などが大きく変化
 - ・ ロシアのウクライナ侵攻に端を発した物価高騰
 - ・ 社会経済情勢は一層不安定で混迷を極めており、今後も先行きを見通すことは困難
- ※2 ・ コロナ禍で地域の会議や行事などが中止され、人と人とのつながりが希薄化
- ※3 ・ グローバル化の進展に伴い、物価高騰などの世界規模の経済情勢の変化が市民生活に直接影響
 - ・ コロナ禍で人の移動が制限され、観光客や市民の外出の機会が減少したことによる、観光業や飲食業などへの打撃
- ※4 ・ 感染リスクの回避や安心・安全な日常、リモートワークなどの“新しい働き方”へのニーズの高まりにより、これまで東京に一極集中していた人の流れが地方へシフト
 - ・ コロナ禍においては、茅野市の別荘地にも多くの人々が滞在した。
 - ・ ポストコロナでは、人の流れが東京へ戻る動きも見られるが、地方への関心は依然高い傾向

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ②

人口減少・超高齢化は確実に進展※1しており（**脅威**）、それにより、地域や産業を支える人材の不足※2が顕在化しています（**弱み**）。

また、超高齢化による社会保障費などの増大により、市財政の硬直化※3が進んでいます（**弱み**）。

- ※1・ 2008年をピークに減少を続ける日本の総人口は、2053年には1億人を下回る予測
 - ・ 特に出生数は、2000年の約119万人が2022年には約77万人になるなど急激に減少
 - ・ 15歳未満の子どもの推計人口は、1,453万人と42年連続で減少し、過去最少を更新
- ※2・ 少子化により、区・自治会の役員や消防団員の成り手不足が顕在化
 - ・ 農林業をはじめとする各産業においても後継者や担い手が不足
- ※3・ 超高齢化による社会保障費や老朽化した公共施設の維持管理費などの増大により、新たな投資への財源確保が困難

世界規模の異常気象※4の影響（**脅威**）と、茅野市の地理的特性が相まって、市内でも自然災害が多発化し、被害も深刻化※5する傾向があります（**弱み**）。

- ※4・ 世界気象機関は、異常気象は長期的な地球温暖化の傾向と一致していると発表
 - ・ 国内でも、記録的な豪雨や猛暑などにより多くの被害が発生
- ※5・ 近年、市内でも集中豪雨などにより、大規模な土石流災害や浸水被害が発生
 - ・ 今後は、南海トラフ地震など、いつ起こるかわからない大地震の発生も予測

3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響 ③

国は、地方のDX（デジタルトランスフォーメーション）の取組を積極的に支援※1しており、**（機会）**、地域の課題解決に向けて先進的にDXの取組を進める茅野市の大きな力になります**（強み）**。

- ※1 ・ 国は、2021年にデジタル社会の実現を目指すための司令塔としてデジタル庁を創設
- ・ 全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す「デジタル田園都市国家構想」を提唱
- ・ デジタルの力により地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図る取組を積極的に支援

2050年のゼロカーボン達成に向けて、国は、GX（グリーントランスフォーメーション）の取組を積極的に推進しており、社会全体の機運の高まり※2も見られます**（機会）**。こうした動きは、八ヶ岳の恵まれた自然環境を、守り、育み、これからも大切に活かしていこうとする茅野市の大きな力になります**（強み）**。

- ※2 ・ 気候変動の原因とされる二酸化炭素の排出の抑制と二酸化炭素の吸収源対策の推進は世界共通の課題
- ・ 国は、2050年までに脱炭素社会の実現を目指すと宣言
- ・ 2021年に策定したグリーン成長戦略に基づき、政策を総動員して脱炭素社会の実現を目指す取組を推進
- ・ GXは、官民連携で目標となるゼロカーボン達成に向けた取組を行い、目標達成と経済成長を同時に目指すもの。

4 これからのまちづくりに必要なこと ①

これまでに把握した茅野市の現状を踏まえた、これからのまちづくりの課題

ポストコロナ社会に対応した人口減少対策の推進

八ヶ岳の豊かな自然環境を活かしながら、安全に安心して、便利で快適な暮らしを送ることができる環境を整備するとともに、成長産業に関連した付加価値の高い雇用の創出、新しいビジネスを興す起業・創業の支援などを通じて、人や企業を呼び込み、交流を促しながら、地域コミュニティの担い手確保と地域経済の活性化の両方を見据えた取組の推進が必要です。

公民協働のまちづくりの転換

人口減少・超少子高齢化の局面においては、これまでの「パートナーシップのまちづくり」のように、地域に多くの人の手があることを前提とするまちづくりの仕組みから、これまで以上に市内外の多様な人のまちづくりへの参画を促し、デジタル技術などを活用しながら、より少ない人数、より軽い負担で、効率的にまちづくりを進めることができるような新たな協働の仕組みへの転換が必要です。

多発化する自然災害と深刻化する被害への対応

災害発生を見据えた地域の連携、協力体制づくりを引き続き進めるとともに、災害発生時に、道路や橋、避難所となる施設などが安全・安心に利用できるよう、長寿命化を見据えた社会インフラの維持管理・更新、住宅の耐震化など、ソフトとハードの両面で自然災害への対応が必要です。

4 これからのまちづくりに必要なこと ②

これからのまちづくりに必要となる取組に関する課題

課題解決の手段としてのDXの推進

茅野市の「DX元年」である2022年に策定した「茅野市DX基本構想」に基づき、これまで他自治体に先行して進めてきたDXの取組を持続し、それを常に成果につなげ、そこで得られたノウハウや知見を、新しいまちづくりの仕組みの再構築や地域課題の解決へ積極的に発揮するとともに、こうした取組を民間事業者と推進し、地域経済の活性化やイノベーションの創出につなげる必要があります。

地域循環共生圏の形成に向けたGXの推進

八ヶ岳の豊かな自然環境を守り、かけがえのない地域資源として活用し、その恩恵を受け取るためには、茅野市においても2050年の脱炭素社会の実現をあらゆる社会経済活動に共通する価値観と位置付けるとともに、民間事業者などとの連携により、持続可能な地域の実現と地域経済の活性化に向けた「地域循環共生圏」の形成が必要です。

持続可能な行政経営の確立

超高齢化の進展に伴う社会保障費や老朽化する社会インフラの維持・修繕費など、今後増大が見込まれ、将来確実に必要になる財源を計画的に確保するとともに、これまでのまちづくりの仕組みや行政経営を再構築し、これからの地域課題の解決に必要なDXの推進等、茅野市の未来を見据えた投資に振り向ける財源の確保が必要です。

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

資料編（各種データ）

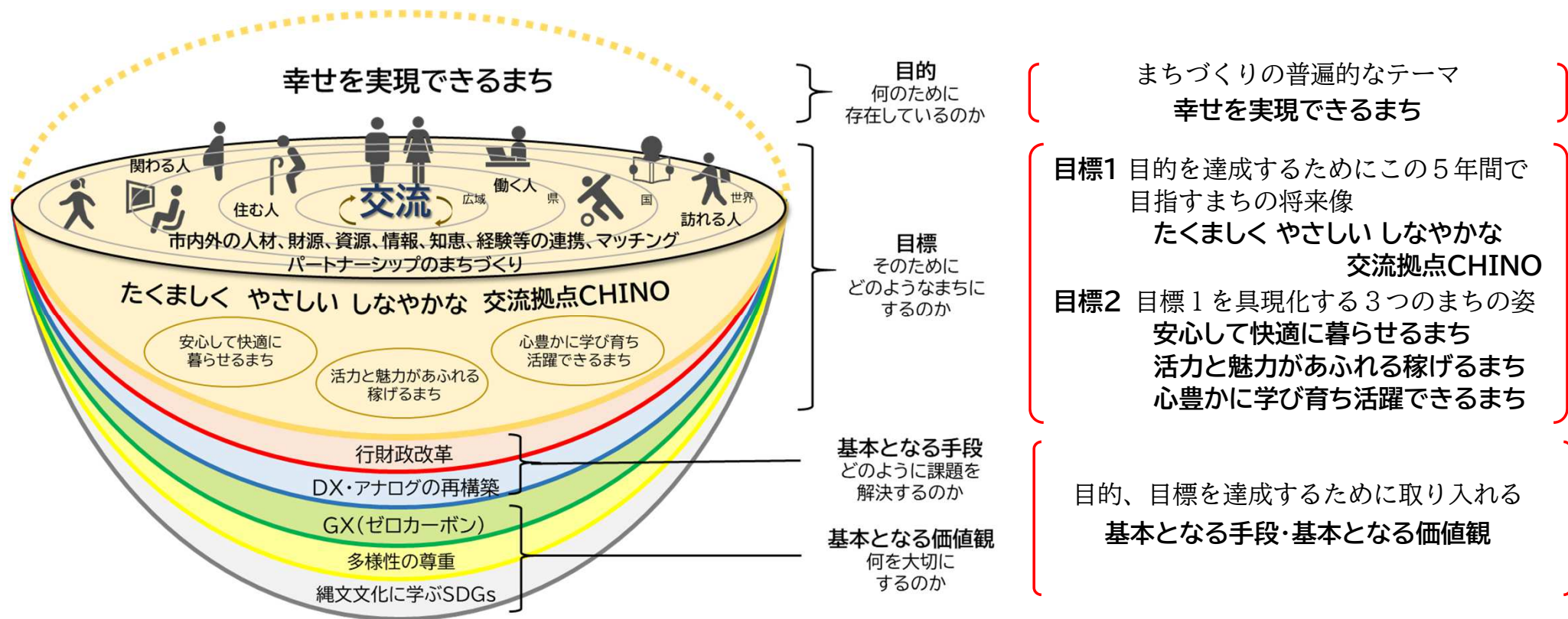
1 これからのまちづくりの考え方 ①

これまでに整理した与件を元に、見出された課題を解決し、これからのまちづくりを進めるための基本的な考え方は、次のとおりです。

- まちづくりの最上位の概念として、目的（普遍的なテーマ）を設定します。
- その実現に向けて、具体的なまちの姿（目指すまちの将来像、3つのまちの姿）を目標として設定します。
- こうした目的、目標の達成を意識しながら取組を推進します。
- 取組の推進にあたっては、新しい手段や価値観を積極的に取り入れます。

1 これからのまちづくりの考え方 ②

まちづくりのイメージ



各パーツの内容については、目的、目標、基本となる手段・価値観の順に次ページから定めます。 9

2 まちづくりの普遍的なテーマ ① 【目的】

グローバル化の進展に伴い、世界規模の社会経済の大きな変化は、市民の生活に直接影響を及ぼしています。一方で、市民一人ひとりの意識と行動が、SDGsやゼロカーボンなど、持続可能な社会の実現に向けた世界共通の目標を達成に導く可能性を有しています。

市内に目を向けると、地域の人口減少・超高齢化は急速に進展しており、人手不足が顕在化する現状を地域に住む一人ひとりがしっかりと見つめ、地域コミュニティの維持を地域の課題として捉えていく必要があります。

これからの時代は、市民一人ひとりが世界や国内の社会経済の大きな変化に柔軟かつ的確に対応することが求められるとともに、社会や地域の課題に対してどのような意識を持ち、その解決に向けてどのような行動を起こすかが、まちづくりを進める上で、非常に大きな意味を持ちます。

2 まちづくりの普遍的なテーマ ② 【目的】

ここで、大事なキーワードになるのが「幸福感」です。

幸福感は、人に前向きさや向上心、人を受け入れよう、人や社会のために何かしようなどの気持ちを生み出してくれます。

これからのまちづくりにおいては、市民をはじめとした、あらゆる人の幸福感を向上することにより最大化された人の心の豊かさが、社会や地域の課題解決への意識と行動を喚起し、まちの豊かさにつながり、そこにまた別の誰かの幸福感を向上する「幸せの連鎖」が生まれ、まちがより豊かになるという考え方が大変重要になります。

そして、こうしたまちの豊かさが、世界共通の目標達成に貢献するような世界規模の豊かさにもつながるまちを目指し、茅野市のまちづくりの普遍的なテーマを次のように定めます。

幸せを実現できるまち

茅野市に住む人、働く人、関わりのある人、茅野市を訪れる人など、あらゆる人が、自己実現を通じて、その人なりの幸せを実現できるまち、その幸せがまた別の誰かの幸せにつながっていくまち、そして、その幸せの連鎖が未来に向かって続いていくまち、そんなまちを実現することが、茅野市のまちづくりの目的です。

この目的の達成に向けて、国が示す「Well-being」（地域幸福度）の考え方を取り入れ、市民の皆さんが日々の暮らしの中で得られる幸福感の向上のため、市民の皆さんと一緒に茅野市のまちづくりを進めていきます。

3 目指すまちの将来像 ① 【目標1】

茅野市を「幸せを実現できるまち」にするために、この5年間で目指すまちの将来像を描く時、まず、これまで茅野市がまちづくりで育ててきたまちの「たくましさ」「やさしさ」をベースに、これからは、目まぐるしい変化が予想される社会経済情勢へ柔軟かつ的確に対応するための「しなやかさ」を、これまで以上に意識していく必要があります。

「たくましさ」

地域において稼げる仕事・誇れる産業があること
元気に生き活きとその人らしく生活できること
まちに活気と魅力があふれ、賑わいを感じられること
災害に立ち向かう気概と、命を守るための備えがあること
新しいことに挑戦し続ける前向きさがあること

「やさしさ」

人の命や自然を大切にし、自分以外を思いやる心を持つこと
安心して子どもを産み、育てることができる環境があること
支え合いの精神と新たな手法による共助の仕組が整っていること
使う人にとって最適な都市基盤が整備されていること
お互いを尊重して認め合い、受け入れ、共生すること

「しなやかさ」

予期せぬ変化や困難を乗り越える柔軟性に富んでいること
持続可能な社会の実現のため、社会の仕組を変えていくこと
生涯に渡って活躍するために向上心を持って学び、実践すること
地域の担い手や求められる人材を育み、呼び込み、未来へと繋ぐこと
大切な価値を守るため、自ら変わり続けること

3 目指すまちの将来像 ② 【目標1】

基本構想

そして、私たちが幸せを実現するための原動力は、多様な **交流** です。

茅野市は縄文時代中期、交易の中心として多くの人が行き交う場所だったと言われています。現代においても、八ヶ岳の豊かな自然環境は、療養地、静養地、避暑地として多くの人を惹きつけ、アフターコロナにおいては、「地方回帰」の場として注目されています。地域には、公民協働による支え合い、助け合いの仕組みがあります。

このように人の交流が常にまちの中心にあることは、いつの時代も変わらない茅野市の強みです。

人口減少・超高齢化の今だからこそ、新たなまちづくりの仕組みを整えて、交流を拡大し、これまで茅野市が培ってきた「たくましき」、「やさしき」、「しなやかさ」に、さらに磨きをかけ、新しい時代に対応した「幸せを実現できるまち」の創造を図りたいと考えています。

3 目指すまちの将来像 ③ 【目標1】

基本構想

交流 の考え方 ～人や企業の呼び込みと、市内への循環～

地方への関心の高さを追い風に、若者を中心とした様々な資源、情報、知恵、経験などを持つ市内外のあらゆる人や企業の交流を促し、その力をまちの力（地域の支え合い、助け合いの力、地域経済を活性化する力など）に転化することで、「よりたくましく」、「よりやさしい」、「よりしなやかな」まちを実現することができます。そして、こうしたまちの姿に惹かれて、より多くの人や企業が交流する好循環が生まれ、その人なりの「幸せを実現できる」フィールドが整います。

そのために、人や企業が集まる目的と、交流を促す仕組みをつくり、市内の様々な場所に様々な交流の場を生み出し、茅野市を軸にした交流の輪を市内外に広げていきます。

また、交流によりもたらされる市外の人々の視点は、ここに住む人では気付かない価値や資源などを掘り起こしてくれます。こうして見出された新たなまちの魅力を発信することで、より多くの人を市外から呼び込むと同時に、ここに住む人の地域への愛着も醸成することができます。

3 目指すまちの将来像 ④ 【目標1】

基本構想

交流 の考え方 ～地域における支え合い、助け合い～

子どもや高齢者の見守り、環境美化活動、災害が発生した際の安否確認、避難の声掛けなど、人の暮らしに密着した課題に対し、地域が一体となり支え合い、助け合うことは、「幸せを実現できるまち」に欠かせない交流の姿です。

地域の担い手の一人として支え合い、助け合いに参画することは、人の幸せ実現の一助になれたという満足感を得るだけでなく、自身も地域に守られているという安心感を得ることもできるため、結果的に自身の幸せの実現にもつながっていきます。

茅野市には、公民協働のまちづくりにより育まれた地域における支え合いや助け合いに加え、市外の人を受け入れる寛容性が息づいています。今後地域で人口減少・超高齢化が進展しても、こうした強みを時代の変化に適応させながら活かすことにより、地域における交流はさらに活性化していきます。

3 目指すまちの将来像 ⑤ 【目標1】

基本構想

こうした考え方に基づき、茅野市を「幸せを実現できるまち」にするために
この5年間で目指すまちの将来像を、次のとおり描きます。

たくましく やさしい しなやかな

交流拠点 CHINO

4 3つのまちの姿 【目標2】

様々な交流を原動力にして、「たくましさ」「やさしさ」「しなやかさ」をさらに磨き上げ、茅野市が「幸せを実現するまち」になるために、次の3つのまちの姿を描き、市民と行政と一緒に推進する具体的な取組を、それぞれ位置付けます。

心豊かに学び育ち活躍できるまち

心豊かな学びを通じて生きる力を育みながら、地域の支え合いやつながりの中で、生涯に渡って活躍できるまち

子育て・教育、文化・芸術、生涯学習、人材育成、地域コミュニティ

安心して快適に暮らせるまち

茅野市に暮らすすべての人が、安心・安全に、快適な生活を送ることができる確かなまち

保健・医療・福祉、都市基盤、防災、環境・衛生、公共交通、行政経営

活力と魅力があふれる 稼げるまち

市内外の人や企業が茅野市で稼ぎ、その恩恵を地域が享受する好循環を生み出すことにより、若者に選ばれ、賑わいや魅力があふれるまち

中心市街地活性化、産業振興、企業誘致、女性の活躍、移住・テレワーク

たくましさ
やさしさ
しなやかさ

5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観 ①

ここまでに掲げたまちづくりの普遍的テーマ、目指すまちの将来像、3つのまちの姿の実現に向けて、課題解決の「基本となる手段」と、共有すべき「基本となる価値観」を定めます。

第6次茅野市総合計画に位置付けたすべての取組は、次ページ以降の「基本となる手段」、「基本となる価値観」を取り入れながら推進していきます。

基本となる手段

行財政改革

- 人の手のあることが前提のまちづくりや行財政の仕組みを、ポストコロナ社会や人口減少・超高齢化に対応した形に変える必要があります。
- そこで、これまで大切にしてきた公民館活動や「パートナーシップのまちづくり」、地域コミュニティなどのまちづくりの仕組みを、茅野市の強みとしてこれからのまちづくりにも活かしていくために、市民との対話を十分に行いながら、新しい時代に対応した形へ再構築します。
- また、市民がより安全に安心して、便利で快適な暮らしを送るために必要な未来への投資が行えるよう、行政内部の仕事のやり方、公共施設や行政サービスのあり方などを再構築します。
- こうした再構築の推進にあたっては、デジタル技術等を積極的に活用し、生産性の向上を目指します。

【関連する計画等】 行財政改革基本方針

基本となる手段

D X ・ アナログの再構築

- 人の手のあることが前提のまちづくりや行財政の仕組みを、ポストコロナ社会や人口減少・超高齢化に対応した形に変える手段として、また、交流を促す手段として、積極的にD Xの取組を推進します。
- D Xの推進にあたっては、まず、人と人とのつながり、人の手による温かみが必要な部分はしっかりと残しながら、アナログの手順を再構築します。
- そして、合理化、省力化、効率化が求められる、人の手でなくても良い部分をデジタル技術等に置き換えたり、デジタルツールを活用して、これまでまちづくりに参画することができなかった人の力をまちの力に取り込むなどして、手順の再構築を行います。
- 安心、安全にD Xの取組に参加できる環境整備や、デジタル機器に不慣れな人を取り残さないようにするための取組に加え、D Xの推進を担う人材の育成も同時に推進します。

【関連する計画等】 茅野市D X基本構想、茅野市D X基本計画

基本となる価値観

G X (ゼロカーボン)

- 2050年のゼロカーボン達成を持続可能なまちづくりに向けた新たな価値観とし、気候変動による自然災害の発生を抑制するなど、安全・安心な暮らしの実現を目指します。
- 八ヶ岳の豊かな森林・農地は、温室効果ガスの吸収のほか水源涵養など公益的な役割を持つ貴重な地域資源であることから、森林の健全育成や農地管理の取組を通じて、自然環境を保全します。
- 他市町村や民間事業者との連携により、エネルギーの地産地消など地域循環共生圏のまちづくりを推進し、地域経済の好循環を目指します。

【関連する計画等】茅野市ゼロカーボン戦略（仮）

基本となる価値観

多様性の尊重

- 人の交流が常にまちの中心にある茅野市は、多様な人を受け入れる地域性を有しています。
- こうした歴史的、社会的な背景を活かしながら、あらゆる人が、お互いの考え方や生き方などを尊重し、それぞれの個性や能力を発揮できる環境を整えることで、さらなる交流の促進を図ります。

【関連する計画等】 茅野市男女共同参画計画、茅野市多文化共生・国際交流推進計画

基本となる価値観

縄文文化に学ぶSDGs

- 茅野市には、市内に多数存在する縄文時代の文化遺産を通じて、縄文文化を身近に感じ、縄文人の生き方や暮らしに触れ、そこから多くの学びを得ることができる環境があります。
- 一方で、私たちの生活様式、考え方など日本文化と呼べるものは、縄文文化を基層にしていると言われており、市内に多数存在する文化遺産を通じた多くの学びにより、現代社会が抱える様々な課題を解決に導く「価値」を見い出すことができます。
- それは、世界共通の目標であるSDGsの考え方にもつながるものであり、関連するゴールと重ね合わせてみることで、SDGsへの理解も深まり、目標の達成に向けた具体的な行動に結び付くことも期待されます。

【関連する計画等】 縄文の里史跡整備・活用基本計画、縄文プロジェクト構想

6 まちづくりの3つのポイント

第6次茅野市総合計画に基づき、市民と行政が一緒にまちづくりを進めるための3つのポイントを、以下のとおり定めます。

① 目的志向 ゴールから考える

目的、目標の達成のために **必要なこと、不要なことを考える。**
変えること、変えないことを考える。

② 未来志向 未来への種まき

10年後、20年後の未来の茅野市のために **今からできることを考える。**
この5年間にできることを考える。

③ 自分ごと化 「自分がつくる みんなの茅野市」

目的、目標の達成のために
未来の茅野市のために **それぞれの立場でできることを考え、行動する。**

7 まちづくりの成果指標と目標

まちづくりにおける最上位の成果指標(KGI:重要目標達成指標)を次の2つとし、それぞれ目標を定めます。

市民意識調査における幸せと感じる人の割合

国が示す「Well-Being」の考え方に基づき毎年市が実施する市民意識調査の「あなた自身の幸福度」の設問において、「幸せ」(「どちらかという幸せ」以上)と答えた人の割合

目標 〇〇% を基準に、前年度の割合を上回ること

将来展望人口

これまでの総合計画と同様に、総合計画に位置付けた人口減少対策の効果を見込んで令和4年度に茅野市が独自に推計した将来展望人口

目標 〇年後(〇〇年度) 〇〇〇人 〇年度(〇〇年度) ●●●人

目次

与件の整理

- 1 現状把握と課題提起の考え方
- 2 茅野市が守り、育んできた大切なもの
- 3 茅野市を取り巻く環境の変化と茅野市への影響
- 4 これからのまちづくりに必要なこと

基本構想

- 1 これからのまちづくりの考え方
- 2 まちづくりの普遍的なテーマ【目的】
- 3 目指すまちの将来像【目標1】
- 4 3つのまちの姿【目標2】
- 5 まちづくりの基本となる手段・基本となる価値観
- 6 まちづくりの3つのポイント
- 7 まちづくりの成果指標と目標

基本計画

※検討中

資料編（各種データ）

3つのまちの姿に関連した施策例 ①

3つのまちの姿に落とし込まれたまちづくりの分野が持つ分野別計画（個別計画）から、この5年間で重点的に取り組む施策や事業などを基本計画として定めます。

次ページ以降で、現時点で想定する施策例を示します。

3つのまちの姿に関連した施策例 ②

安心して快適に暮らせるまち

茅野市に暮らすすべての人が、安全に安心して、快適に生活することができる
確かなまち

施策例

日頃から防災・減災に対する意識を高めるとともに、地域における協力体制の構築や、道路・橋梁・上下水道の長寿命化・耐震化など、ソフト、ハードの両面で安心・安全な社会基盤の整備を計画的に推進します。

複雑化、多様化する生活課題に対して必要な支援が届くよう、デジタル技術等を活用しながら、利用者のニーズに見合った安定的なサービスの提供を目指します。

森林は、土砂流出による災害の防止や水源かん養のほか、近年では、二酸化炭素の吸収源として重要な役割を担っており、地域資源として未来に受け継いでいくために、持続可能な基盤づくりを推進します。

3つのまちの姿に関連した施策例 ③

活力と魅力があふれる稼げるまち

市内外の人や企業が茅野市で稼ぎ、その恩恵を地域が享受する好循環を生み出すことにより、賑わいや魅力があふれるまち

施策例

先人たちがこの地で築き上げた産業を守り、さらに発展させていくため、次世代を担う人材の育成や後継者の確保に向けた取組を進めます。

中心市街地の賑わいの創出に向け、市内外の駅利用者の利便性や満足度の向上などを実現する新たな価値の提供を見据え、茅野市の玄関口であるJR茅野駅を中心としたエリア一体の今後のあり方の検討を進めます。

コロナ禍における脱東京一極集中・地方移住の流れは依然として強く、この流れを関係人口・交流人口の増加と、移住・定住につなげる取組を進めます。

3つのまちの姿に関連した施策例 ④

心豊かに学び育ち活躍できるまち

心豊かな学びを通じて生きる力を育みながら、地域の支え合いや繋がりの中で、生涯に渡って活躍できるまち

施策例

子どもたちが様々な原体験を通じて多くの人との関わりを持つことができる地域づくりや、希望に応じて子どもを産むことができ、幸せに満ちた子育てができる環境づくりに、市民一丸となって取り組むことで出生率の増加を目指します。

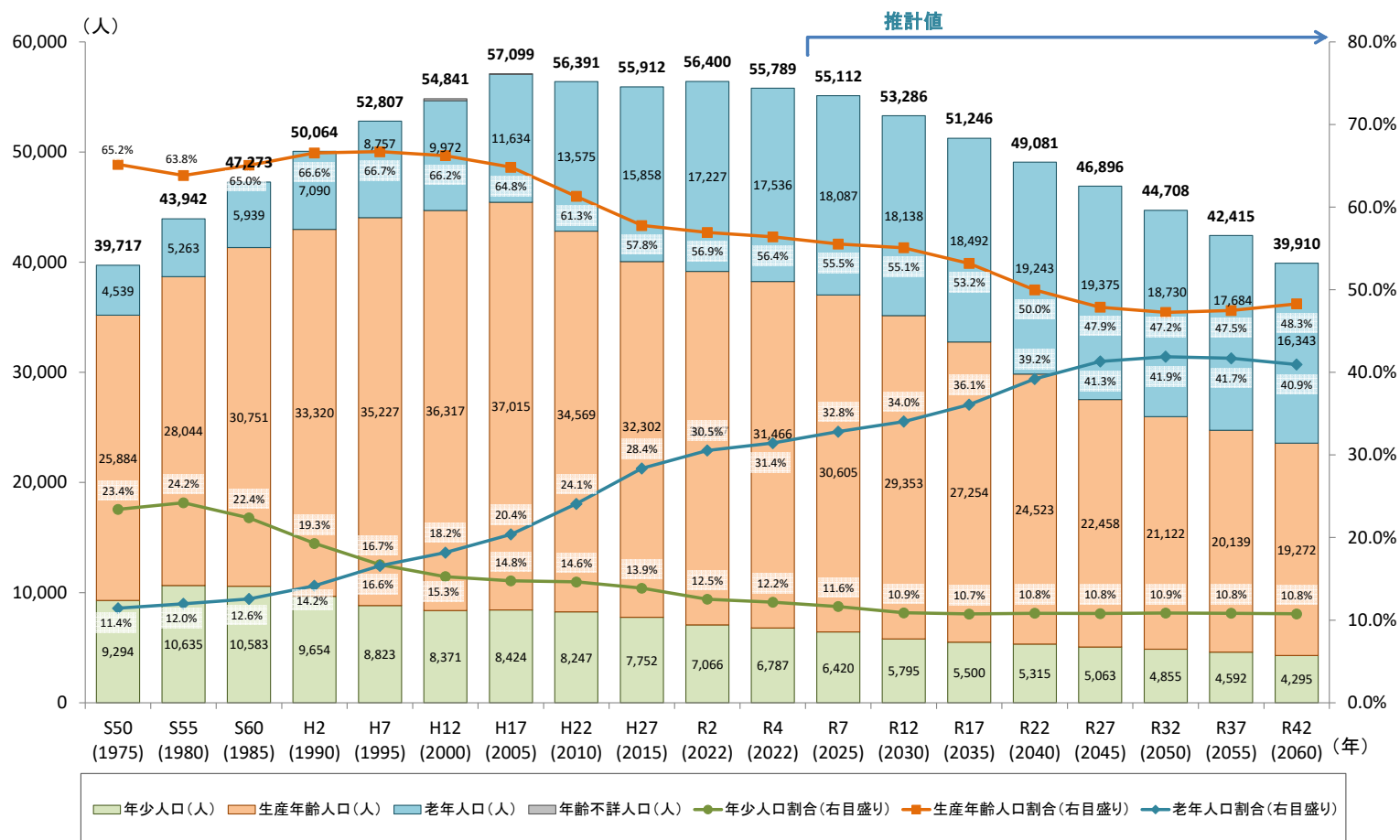
様々な人材育成に継続的に取り組むとともに、時代とともに維持することが難しくなってきた仕組や習慣を見直し、限りある地域の人材が生涯に渡って活躍できるまちづくりを推進します。

資料編

(各種データ)

社人研推計ベース（社人研 平成30年推計に準拠し推計）（案）

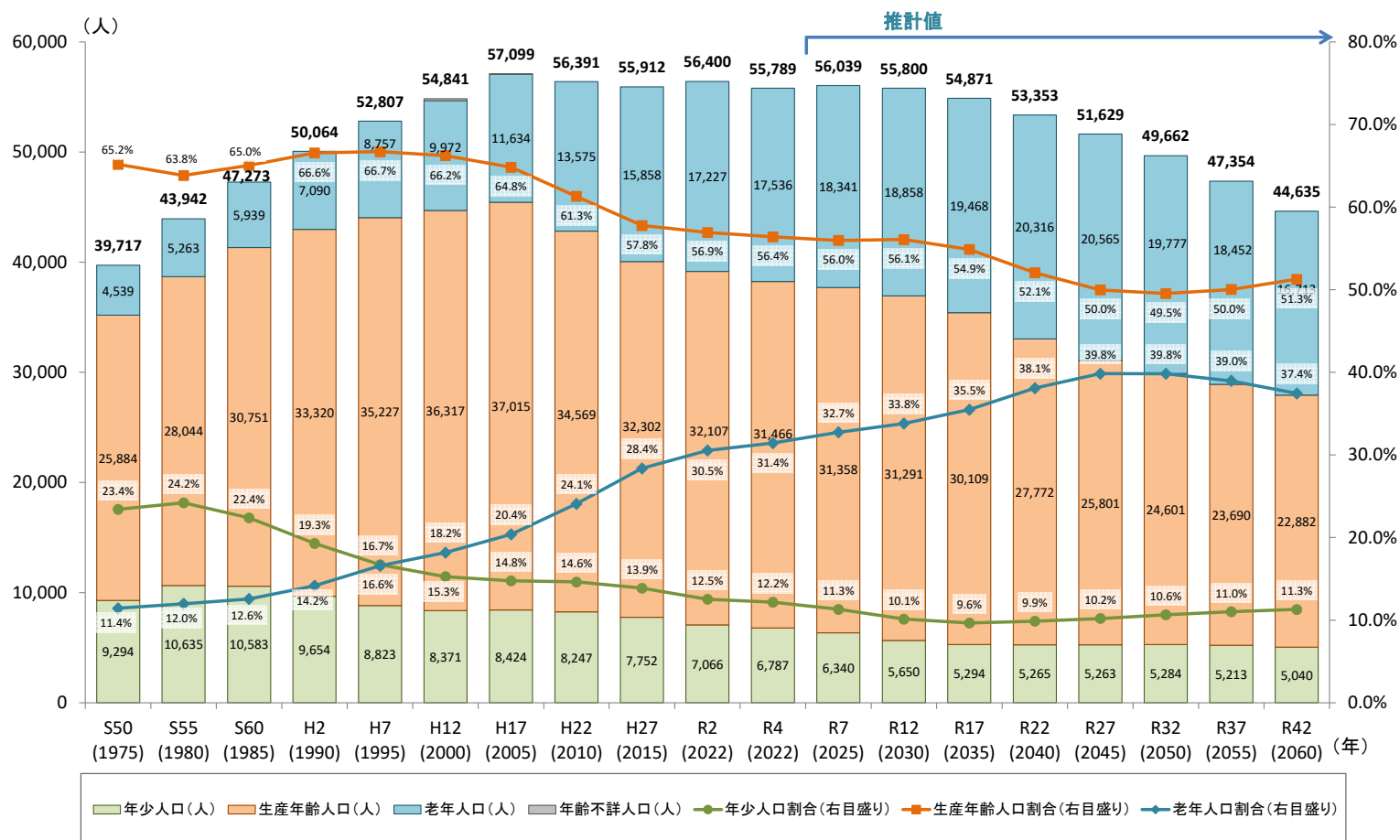
- 令和4年（2022年）に55,789人だった人口は、令和22年（2040年）に49,081人、令和42年（2060年）に39,910人まで減少すると推計される
- 高齢化率は、令和32年（2050年）にかけて41.9%に上昇し、以降は40%程度で推移すると推計される
- 生産年齢人口は、令和27年（2045年）で50%以下となり、その後も50%を下回る状況が続くと推計される



(注) S50(1975)～R2(2020)：総務省統計局「国勢調査」、R4(2022)：茅野市推計(※H12(2000)～R4(2022)は年齢不詳人口がある。このうちH22(2010)～R4(2022)については、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分してある。)
R7(2025)～R42(2060)：茅野市にて推計

将来展望人口（茅野市独自推計、総合計画で設定する人口フレーム）（案）

- 令和4年（2022年）に55,789人だった人口は、令和22年（2040年）に53,353人、令和42年（2060年）に44,635人まで減少すると推計される
- 高齢化率は、令和27年（2045年）にかけて39.8%に上昇し、以降は減少に転じると推計される
- 生産年齢人口は、令和32年（2050年）で49.5%まで低下し、以降は上昇に転じると推計される



(注) S50(1975)～R2(2020)：総務省統計局「国勢調査」、R4(2022)：茅野市推計(※H12(2000)～R4(2022)は年齢不詳人口がある。このうちH22(2010)～R4(2022)については、年齢不詳人口を年齢3区分にそれぞれ按分してある。)
R7(2025)～R42(2060)：茅野市にて推計